

出版情報

『古文書つれづれ&明治の京都』

京都府立総合資料館

当館では、館の行事や所蔵資料等を紹介する広報誌『総合資料館だより』（季刊）を昭和46年から発行しており、この中に、当館の資料に係わる話題について歴史資料課の職員が執筆する「古文書つれづれ」と「明治の京都」のコーナーがあります。昭和63年から連載を始めたものがそれぞれ二十数編まとまったことから、当館の開館40周年記念事業として、昨年、1冊の冊子に取りまとめて刊行したものです。

「古文書つれづれ」は当館が所蔵する国宝「当時百合文書」をはじめとする様々な古文書にまつわる話題について、また、「明治の京都」は自治体の行政文書として全国で初めて重要文化財に指定された「京都府行政文書」から見た京都近代化の歩みの諸側面について、それぞれの担当職員が交替で執筆したものです。時代も平安から明治時代と幅広く、題材も様々ですが、どれも資料に基づき焦点を絞って書かれているため、大きな歴史の流れから隠れがちな往時の様子を垣間見ることができます。

この冊子では、文献課の職員が、日々の相談業務の中で受ける様々な質問に関連して執筆した「レファレンス・コーナー」も収録しており、我々京都人でも意外に知らない、京都ならではの興味深い話題も取り上げています。

歴史に興味のある方にも、あまり詳しくない方にも、十分楽しんでいただける読み物になっており、この冊子を通して、古文書や行政文書、あるいは京都関係図書資料など、当館の資料に関心を持っていただければ、と願っております。

各都道府県立図書館及び文書館等に配布しているほか、京都府立総合資料館友の会（総合資料館内）において、1冊500円（送料別）で販売しています。（B5版、84ページ）

